# 京都大学 1995 年 入学試験 後期理系数学 問題 3

# 問題

a , b , c は実数で  $a \ge 0$  ,  $b \ge 0$  とする .

$$p(x) = ax^2 + bx + c$$
,  $q(x) = cx^2 + bx + a$ 

とおく .  $-1 \le x \le 1$  をみたすすべての x に対して  $|p(x)| \le 1$  が成り立つとき ,  $-1 \le x \le 1$  をみたすすべての x に対して  $|q(x)| \le 2$  が成り立つことを示せ .

# 解答

a, b, c それぞれが0 である場合を分けて考える。

#### 可能な組合せは

$$a = 0, b = 0, c = 0$$

$$a \neq 0, b = 0, c = 0$$

$$a = 0, b \neq 0, c = 0$$

$$a = 0, b = 0, c \neq 0$$

$$a \neq 0, b \neq 0, c = 0$$

$$a \neq 0, b \neq 0, c = 0$$

$$a \neq 0, b = 0, c \neq 0$$

$$a = 0, b \neq 0, c \neq 0$$
(6)
$$a = 0, b \neq 0, c \neq 0$$
(7)

$$a \neq 0, b \neq 0, c \neq 0 \tag{8}$$

# の8通り

# (1) の場合

$$p(x) = 0, q(x) = 0$$
 なので

 $-1 \le x \le 1$  をみたすすべての x に対して  $|q(x)| \le 2$  が成り立つ

#### (2) の場合

$$p(x) = ax^2, q(x) = a$$
 となる

p'(x) = 2ax となり a > 0 より  $(a \neq 0$  は (2) の仮定)

$$\begin{cases} p'(x) < 0 \ (x < 0) \\ p'(x) = 0 \ (x = 0) \\ p'(x) > 0 \ (x > 0) \end{cases}$$
(9)

p(x) は x < 0 で単調減少、x > 0 で単調増加

よって x=0 で最小値 0 をとり

x = 1, -1 の両端のどちらか大きい方が最大値となる。

しかし、
$$p(1) = a(1)^2 = a(-1)^2 = p(-1)$$
 なので

最大値は p(1) = a

したがって p(x) は  $0 \le p(x) \le a$ 

条件より  $|p(x)| \le 1$  なので  $0 < a \le 1$ 

そのとき q(x) = a なので

 $0 < q(x) = a \le 1$  となり

 $-1 \le x \le 1$  をみたすすべての x に対して  $|q(x)| \le 2$  が成り立つ

#### (3) の場合

p(x) = bx, q(x) = bx となり p(x) = q(x)

 $|p(x)| \le 1$  なので  $-1 \le x \le 1$  をみたすすべての x に対して  $|q(x)| \le 2$  が成り立つ

# (4) の場合

 $p(x)=c, q(x)=cx^2$  となり  $|p(x)| \le 1$  より  $|c| \le 1$  q'(x)=2cx となり c>0 の場合は

$$\begin{cases} q'(x) < 0 \ (x < 0) \\ q'(x) = 0 \ (x = 0) \\ q'(x) > 0 \ (x > 0) \end{cases}$$
(10)

q(x) は x < 0 で単調減少、x > 0 で単調増加

よって x=0 で最小値 0 をとり

x = 1, -1 の両端のどちらか大きい方が最大値となる。

しかし、
$$q(1) = c(1)^2 = c(-1)^2 = q(-1)$$
 なので

最大値は q(1) = c

したがって q(x) は  $0 \le q(x) \le c$ 

 $|c| \le 1$  より  $0 \le q(x) \le 1$ 

したがってなりたつ

#### c < 0 の場合は

$$\begin{cases} q'(x) > 0 \ (x < 0) \\ q'(x) = 0 \ (x = 0) \\ q'(x) < 0 \ (x > 0) \end{cases}$$
(11)

q(x) は x < 0 で単調増加、x > 0 で単調減少

よって x=0 で最大値 0 をとり

x = 1, -1 の両端のどちらか小さい方が最小値となる。

よって同様に q(x) は  $0 \ge q(x) \ge c$ 

 $|c| \le 1$  より  $0 \ge q(x) \ge 1$ 

したがってなりたつ

# (5) の場合

$$a \neq 0, b \neq 0, c = 0$$

 $p(x)=ax^2+bx, q(x)=bx+a$  となる。 p'(x)=2ax+b より (a>0,b>0 むり)

$$\begin{cases} p'(x) > 0 \ (x < -b/2a) \\ p'(x) = 0 \ (x = -b/2a) \\ p'(x) < 0 \ (x > -b/2a) \end{cases}$$
(12)

-b/2a < -1 の場合

p(x) は区間  $[-1 \le x \le 1]$  の範囲で正

つまり単調増加なので最小値は p(-1) = a - b 最大値は p(1) = a + b

このとき q(x) は bx + a で b > 0 な 1 次関数であるから単調増加

したがって最小値は q(-1) = -b + a = p(-1), 最大値は、 $q(1) = a + b = p(1) |p(x)| \le 1$  より  $|q(x)| \le 1$ 

# したがってなりたつ

 $-1 \le -b/2a \le 1$  の場合

a>0 より

p(x) は x=-b/2a の点で最小値をとり

x=1,-1 のどちらか大きい方が最小値となる。

$$p\left(\frac{-b}{2a}\right) = a\left(\frac{-b}{2a}\right)^2 + b\left(\frac{-b}{2a}\right)$$
$$= \frac{b^2}{4a} - \frac{b^2}{2a}$$
$$= -\frac{b^2}{4a}$$

また

$$p(1) = a + b, p(-1) = a - b$$

a > 0, b > 0 より p(1) > p(-1)

よって、

$$-1 \le -\frac{b^2}{4a} \le p(x) \le a + b \le 1$$

前と同様に  $a-b \leq q(x) \leq a+b \leq 1$  だから  $-1 \leq -\frac{b^2}{4a}$  から

$$\frac{b^2}{4a} < 1$$

a>0 より

$$b^2 < 4a$$

b > 0 より

$$b < 2\sqrt{a}$$

$$a - b < a - 2\sqrt{a}$$

# (6) の場合

$$a \neq 0, b = 0, c \neq 0$$

$$p(x) = ax^2 + c, p(x) = cx^2 + a$$
  
 $p'(x) = 2ax$   
 $(a > 0, b > 0 より)$ 

$$\begin{cases} p'(x) > 0 \ (x < -b/2a) \\ p'(x) = 0 \ (x = -b/2a) \\ p'(x) < 0 \ (x > -b/2a) \end{cases}$$
(13)